

Title	a+a 美学研究 第13号 裏表紙
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2019, 13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90106
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論考

004

018

032

芸・装飾・建築・景観・環境などが一体何であるのかを掘り下げて問うてみたいと思います。 デザインの仕事がこれほど変化しているならば、デザインの概念もまた昔と同じではありえません。 はじめに 002 3Dプリンタ時代の工芸家像 北村仁美 現代写真と古陶磁 宮川智美 無装飾から超装飾へ 高安啓介 匂いのデザイン 岩﨑陽子 長寿時代を生きるための運動のデザイン 近藤存志 人間の目から考える景観デザイン 山内貴博 076 現代的ランドスケープと公共空間 人間の脳・機械の脳・環境の脳 高安啓介 106 たしかに、この静かな変化について知らなくても、デザインの デザイン哲学の陥穽 スローターダイクにおける「島化」と「泡塊」 今日の事情に照らして、デザインの概念だけでなく、工 社会デザイン 批判デザイン 思弁デザイン 食のデザイン 高安啓介 エッセイ 裁量労働制の寓話――ヴェネツィアの彫刻家から博多の仙厓まで Gマークは「共有と協働」の時代へ

160

田中 均

解説

120

132

執筆者紹介

仕事はできるでしょうし、デザインの研究もできるでしょう。けれども、私たちの思考の前提がどのように変化しているか自覚できたとき、何を克服すべき

なのか、何を維持すべきなのか、考える糸口が見出されるにちがいありません。